

平成 28 年 10 月吉日

各 位

OATアグリオ株式会社

「ジウロン水和剤」適用拡大のご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてよりご協力を賜りました除草剤「ジウロン水和剤」が平成 28 年 10 月 5 日付けにて適用拡大登録となりましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

商品名 : ジウロン水和剤 (第 2 1 1 0 9 号)

有効成分・% : DCMU 80.0%

登録年月日 : 平成 28 年 10 月 5 日 (登録拡大)

<1>適用内容の変更 :

- ・ 適用作物名の追加 : 飼料用さとうきび、食用亜麻

【変更後の適用表】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
陸稲	—	一年生雑草	は種直後	60～100g /10a	1000/10a	1回	全面土壌 散布	1回
だいず あずき			は種直後～発芽前	70～100g /10a				2回以内 (出芽前は 1回以内、 生育期は 1回以内)
らっかせい			は種直後	60～100g /10a				1回
ばれいしょ			植付後～ 萌芽前	70～100g /10a				
らっきょう			植付覆土後	60～100g /10a				
さとうきび			多年生広葉 雑草	植付覆土後又は 培土後	100～150g /10a			70～1000 /10a
		雑草生育期（草 丈15cm以下） ただし収穫90日 前まで		1000/10a				
飼料用さとう きび		一年生雑草	植付覆土後又は 培土後	100～150g /10a	70～1000 /10a	1回	全面土壌 散布	1回
		多年生広葉 雑草	雑草生育期（草 丈15cm以下） ただし収穫90日 前まで		70～1000 /10a			
食用亜麻		一年生雑草	生育期（8葉期以 降） ただし収穫60日 前まで	60g/10a	1000/10a	1回	雑草茎葉 散布	1回
麦類(冬作)		ヤエムグラ	ヤエムグラ発芽	60～70g	1000/10a	1回	全面土壌 散布	1回
		一年生雑草	揃期	/10a				

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
りんご なし もも かき かんきつ ぶどう おうとう うめ	—	一年生雑草	雑草発生前	100～ 200g /10a	1000/10a	1回	ノニオン系 展着剤を加えて雑草茎 葉散布	1回
			雑草生育期	200～ 400g /10a				
			子葉展開期	60～80g /10a				
			雑草発生前	100～ 200g /10a				
あま(単作)			雑草発生前	100～ 200g /10a			全面土壌 散布	
桑			雑草発生前	100～ 200g /10a			全面土壌 散布	
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生雑草	雑草発生前	60～200g /10a	1000/10a	3回以内	植栽地を除く樹木等の 周辺地に全 面土壌散布	3回以内
			雑草生育期	200～ 400g /10a			植栽地を除く樹木等の 周辺地にノ ニオン系展 着剤を加え て雑草茎葉 散布	

＜2＞注意事項等の変更

【変更後】

使用上の注意事項

- (1) 覆土はできるだけ土を細かく砕いて、必ず3～4cmの厚さに均一に行うこと。
- (2) 砂質で水はけのよい畑や雨の多い時期にはDCMUが土中深く浸透して作物の根をおかし、葉害を起こすおそれがあるから注意すること。
- (3) 葉液はときどきかきまぜながら、むらのないように散布すること。
- (4) 近くに根の浅い作物がある場合は、散布液が流れて行かないように注意すること。
- (5) 使用後、容器や散布器具は必ず十分水で洗うこと。
- (6) さとうきび、飼料用さとうきびの新植後、分けつが始まる頃に薬剤がかかると葉害が発生することがあるので、さとうきび、飼料用さとうきびにかからないように注意して散布すること。
- (7) 食用亜麻で使用する際には、生育の進んだ雑草には効果が劣ることがあるので、中耕などの機械除草との併用により効果の安定をはかること。
- (8) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - 1) 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
 - 2) 散布葉液の飛散、あるいは本剤流出によって有用植物に葉害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
 - 3) 水源池、養魚池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - 4) 散布葉液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (9) 蚕に対して影響があるので、桑葉にはかからないようにすること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。